口頭発表「飼育大好きな子を育てるために！」
～飼育環境の充実を図る実践～

村中幸枝

１　学校の概要

本校は，石川県金沢市の中心部に位置し，児童数393名14学級（特別支援学級２），教職員数24名の中規模校であり，創立27周年を迎えた比較的新しい学校である．街中の学校にしては，広い校庭があり，コナラの林や大きな木々，自然石でできた庭や池等，自然に親しむ環境がある程度整っている．

２　飼育環境の整備を図る実践

(1) 飼育環境の状況

１年前に本校に赴任してきた時の状況は，世話をする子ども達にとっても動物達にとってもよくないものでした．

- 飼育小屋自体が古く，風雨をやっと防げる程度で，ねずみが出没していました．
- 隣接している広場には，放置されたままの大きなコンクリートブロック，堆積されたフンやゴミの山，排水設備がないので水溜りがあちこち．
- どの部屋にも，水道の蛇口はありましたが，出ないようにしてあり，以前は土を入れていた風呂のような大きな穴があり，寒い冬にその中で生活していたようです．また，コンクリートはむき出しで汚れており，フンがこびりついた台が２つあるだけでした．
- 飼育されている動物は，うさぎ６羽，チャボ４羽，ウコッケイ１羽と個体数が多く，３つの部屋に混在していました．
- 野鳥等の侵入防止のネットだけはしっかり張ってありました．
- 飼育担当は４年生ですが，汚い小屋での世話は不十分でした．

このような状況で，飼育を通して命の大切さを学ぶなど，難しいと思われました．学校は楽しい場所でなければなりません．それは，飼育に携わる子ども達や先生方，動物達にとっても同じです．管理職として出来ることは何か，管理職だからこそ出来ることは何か．私の取組がスタートしたのは，５月でした．

(2) 実践の歩み（平成18年度）

①施設・設備の改修と整備

【排水設備と部屋の補修】

市教育委員会の中に施設管理を担当する部署があり，材料費を学校が負担すれば，工事をしてくれる所です．以前，私も何回か利用していたので，依頼書を出してみました．顔見知りの方ばかりなので，すぐ取りかかってくれて，５月から６月に，排水工事と部屋のリフォームが完了しました．

【飼育小屋の改修工事のための予算獲得】

飼育小屋の改修工事の費用は，高額なものでした．育友会からの支援も限度があり，市教育委員会に予算申請をしてみました．しかし，視

察に来た担当者からの回答は，「無理です」．暑い夏を目の前にして，このままでは終われない．再三のお願いで，もう一度飼育小屋を見てもらったのですが，良い返事は返ってこない．その時です！丸々太ったねずみが天井から駆け下りてきたのです．　改修工事は８月のお盆の前に完了しました．育友会からも負担を申し出てくれました．

【飼育小屋周辺の整備】

市教育委員会の施設管理に，広場の整備を依頼しました．コンクリートブロックの撤去，金網の補修，水はけのための溝の整備や土間の造成，広場の出入り口の設置等，様々な工事を今年の３月までしていただきました．

②飼育の仕方の改善

水道を使えるようにしてから，担当の先生方に，必要な物は購入することを知らせ，以下の改善を実行してもらいました．

・混在していたチャボとうさぎを分け，新聞紙を毎日替える．
・すのことフン用の入れ物を常置し，食器類と同じように水洗いを徹底する．
・世話をしている子ども達を見に行くこと，日誌をきちんと書かせること．

休日や年末などは，子ども達も先生方も来れないことが多く，私が受け持つことで，不幸な事態は起きなかった．保護者との連携を今後考えていかなければならないと思いました．

③獣医さんとの連携

金沢市では，獣医師による飼育活動サポート体制が数年前から実施されています．獣医さんが数校を担当しており，定期的に訪問し，現状の把握と助言をするシステムになっています．

本校の獣医さんの病院は，学校のすぐ側にあり，親身になって対応してくれるので大変助かっています．先生が以前から指摘されていたことを管理職が取り組んだことで，良好な信頼関係を築きつつあると感じました．

④総合的学習のカリキュラムの見直し

４年生の総合的学習に位置付けられている「飼育学習」の内容を見直すプロジェクトチームを12月に立ち上げました．世話だけで終わりがちな

活動ではなく，そこに学びがなければならないと考えたからです．４年の先生がチーフとなり，３月にカリキュラムが完成しました．３・４年生の半年飼育，低学年との動物ふれあいタイム，獣医さんとの交流，動物園見学など，子ども達が本校の動物達を愛しみ，命を見つめる活動が盛り込んであります．

３　飼育環境の充実を図る実践（平成19年度）

(1) 豊かな心を育む地域連携活動事業の実践

今年度は充実を図る年にしたいと考え，応募して予算を獲得した事業です．

ねらい	○学校の学習環境を整備する活動を通して，保護者や地域住民の参画意識を育み，児童が自然や小動物に親しむ体験の中で命を尊ぶ心を培い，心豊かな児童を育成する．
内　容	○学校の飼育小屋に隣接した広場に，動植物の観察や触れ合いができる野外教室を造成する．

学校飼育にとって，保護者との連携は必要不可欠であります．まず，保護者の方々に，本校の動物達を知ってもらう機会を設けることが，連携への一歩だと考え，学校だよりで呼びかけてみました．お父さんの会の方々をはじめ，多くの方々が協力して下さり，学校で一番ステキな場所に生まれ変わりました．動物達の生き生きとした姿，お世話する子ども達の楽しそうな様子に，「やって良かった！」と思いました．

(2) 総合的な学習の充実

本校では，総合的学習の発表の場として，11月末に「いきいきテーマパーク」を開催しています．今年度は，新カリキュラム実施ということで，意欲的に取り組んでいるようです．４年生は学習のまとめとして，石川動物園に出かけます．10月からお世話を引き継いだ３年生は４年生から教えてもらいながら，一生懸命取り組んでいます．２年生は，生活科の学習「いきものとなかよし」で，担当の獣医さんを招待し，広場（ふれあいランド）で動物達との触れ合い方を学んでいました．９月の動物愛護週間中に，本校の取組が，テレビ放送されたこともあり，動物への愛情が着実に育まれつつある，と実感しています．

(3) 安全で清潔な学校飼育

本市の市長さんの街づくりのコンセプトは「安全で清潔」です．学校飼育でも同じだと思います．今後は，保護者や地域・獣医さんと連携した飼育ネットワークの実現，より快適な飼育環境設備の充実等を目指し取り組んでいきたいと考えています．

４　おわりに

６月に，うさぎのおっとチャンが天国へ旅立ちました．おとなしいので，おっとチャンと呼ばれ，可愛がられていました．数日後，女の子が思いつめた表情で，「教頭先生，おっとチャンが死んだのは私たちのお世話がダメだったのでしょうか？」この子は，心痛めて悩んでいたのだと思うと胸が熱くなりました．みんなのせいではないことを話すと，「飼育，頑張ります！」と去っていく足取りは軽やか．思わず，「おっとチャン，ありがとう」と呟いていました．

私は，小さな命を大切にすることが，自分や他人の命を大切にすることにつながると信じています．たかが「飼育」されど「飼育」です．これからも，飼育大好きな子を育てるために，管理職として微力ながら頑張ります．

（金沢市立新神田小学校教頭）

【質疑応答】

＜中川＞

土日や長期休業の時の飼育活動については，これから総合的な学習の時間に位置づけられるようですが，私たちの地域では，総合的な学習の時間に位置づけるときに，子育てという観点から位置づけるようにしています．それで，保護者の方々に一緒に手伝ってくださいと言うことができます．このことを，保護者会で校長先生や学年主任の先生から話していただくと，保

護者の皆さんは理解して手伝ってくれます．３クラス，４クラスあれば，百人以上の保護者がいるわけで，年に２～３回平等に割り振って，お手伝いいただくようにしています．その時に，子どもたちの成長のためにお願いしますと言うようにし，義務的にお願いするようなことをしないようにしています．

＜福岡・森田獣医師＞

学校飼育動物を見ていて不満に思うことがあります．それは，個体識別ができていないことです．生まれた年や雌雄さえもわからないで飼育していることがあります．そのことを先生に言うと，「子どもたちがわかっていますから．」という答えが返ってくるので，「先生方も覚えておいてください．」と言っています．

その点，新神田小学校の先生方は皆さん優秀な方であると感じましたが，きちんと個体識別はできているでしょうか．

＜村中＞

動物には皆名前が付いています．

＜福岡・森田＞

また，生年月日を記録しておくのは難しいと思いますので，生年と生まれた季節を記録しておいていただくと，獣医師としては非常に楽です．何年も生きてきた動物を看るときと，昨年生まれたばかりの動物を看るときでは，見方が違います．

ということで，どの小学校でも，飼育動物の個体識別と生まれた年，季節は必ず記録しておいていただきたいと思います．

＜滋賀・佐藤＞

今のお話を伺っていると，とても心強い管理職がいらっしゃるということで，羨ましく思います．

学校では，動物に関心のある方とない方の差がすごく激しく，関心のない方にお話ししてもなかなか理解していただけないところも多いですが，学校の中にリーダーとなってくれる方がいると，学校も大きく変わってくると思います．しかし残念ながら，そのような先生が私の学校ではいないので，近くの獣医師さんにお世話になりながら，ウサギたちにとって住みよい環境をつくろうと，日々努力しています．

滋賀県では，獣医師会の先生方が学校をサポートしてくださっていて，年に１回は健康診断もしてくださいます．また，飼育環境などもチェックしてくださって，適切なアドバイスなどもいただいています．

先ほども，個体識別のお話がありましたが，うちの学校でもお誕生日カルテのようなものをつくっています．うちの学校では，委員会はないんですが，自主活動として，動物好きな子どもたちが集まってきて飼育活動をしています．それと，４年生全員も飼育に携わっています．その子どもたちは皆，動物たちの名前は全部知っていますが，全校の子どもたちに知ってもらうために，飼育便りをつくって配布しています．そのような活動をしないと，なかなか子どもたち全員に浸透しないと思います．

それから，避妊手術については，獣医師さんにボランティアでしていただいていますが，子供が生まれた場合は，地域の幼稚園などに協力してもらって，里親捜しをしています．そして，その里親の方々が，「ラビットクラブ」という団体をつくって，飼育活動などに協力いただいています．

しかし，今発表いただいた学校のように，組織だって活動していかないと，なかなか広がっていかないと思います．今一番心配なのは，私が異動したときにこのような活動がずっと残っていくかどうかということです．継続してずっと動物を体節にしていく環境をつくっていくためには，もっと大きな力が必要だと感じています．その意味でも今日のお話はとても参考になったので，帰ったら，管理職の先生方にもお話ししてみようと思います．

＜福井・大門＞

先生の学校ではチャボをたくさん飼っているようですが，飼育小屋を新しくして，飼育を継続するときに，保護者の方々から，不安の声はありませんでしたか．もしあったとしたら，先生のお答えはどのようだったのか，是非お聞かせください．

＜村中＞

新しくしたのは，ネズミが出ていたところの飼育小屋です．ですから，新しくすることを当たり前のように思っていた保護者もいましたし，ばい菌が移ってしまうのではないかという声もありました．

飼育に関しては，私の頭の中でいつも考えていることですが，「人の集まるところで飼育する」，「安全で清潔である」，これを考えからはずさないようにしていますし，保護者の方にもそのような話をしています．ですから，人の集まるところは，安全で清潔である．これは，金沢市長の街作り構想の中で言われていることです．

私は，自分の言葉には自分なりの信念をもっておりますので，保護者の方もきちんと話を聴いてくださいますし，清潔な対策をきちんとして，お話をするようにしています．

ただ，一番大切なところは，校長がどのようなビジョンであり，動物飼育についても校長のビジョンで決まってしまいます．私はまだ教頭ですので，校長になったら，もっと声を大きくしていきたいと思います．